

は じ め に

ここに令和6年版「能美市統計書」を発行いたします。

本書は、本市の人口、経済、社会、文化等の各分野にわたる基本的な統計資料を総合的に集録しています。今後、社会や経済、環境が大きく変容していく中で、統計データの重要性がさらに増していくものと思われます。本書が行政資料としてだけでなく、学術研究や企業経営の基礎資料などに広くご利用いただければ幸いに存じます。

編集にあたりましては、内容の整備に努めたところでありますが、今後とも利用者各位のご要望やご指摘を参考に、よりよい統計書として改善充実を図ってまいりたいと存じます。

なお、発行にあたり、貴重な資料を提供していただきました関係各位に対し心からお礼を申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

能美市長 井出 敏朗

能美市は、平成17年2月1日に根上町、寺井町、辰口町の3町が合併し、平成の大合併として石川県内第3号、10番目の市として誕生しました。

金沢市と小松市のほぼ中間に位置し、全国有数の先端産業の集積や北陸先端科学技術大学院大学の存在をはじめ、県内産業の中心的な機能を担うとともに、海岸から美田、丘陵に至る豊かな自然環境とレクリエーションエリア、九谷焼や古墳群、温泉などの多様な歴史・文化により育まれた良好な居住環境を有しています。

■市章



能美市の「の」を、正円、正三角形の幾何学的模様によってバランスよく配置し、近代性、合理性などを兼ね備えるとともに、丸みをつけることでやさしく素朴なイメージを表し、3色のカラーは、海の青と山の緑、橙で九谷焼の土をイメージし、まちづくりのテーマでもある海・山・川の恵みや自然・歴史・文化など多様な資源を有するこの地域が一体的に発展することを表現したものです。

■「能美」の由来

能美市の「能美」の名は、平安時代の前期、弘仁14年（823）に加賀国が立国した際新しい行政区画として生まれた加賀国能美郡に由来します。国の役所である国衙及び国分寺は郡内の野身郷（能美郷）に置かれ、その政治・経済の拠点として発展してきました。

「能美」とはおそらく、「物事を成し得るすばらしい力と美しい自然環境のある地」＝「新しい加賀国の政治経済の中心地としてふさわしい地」といった意味があり、人々が新しい国づくりに対する意欲や誇りを表現するために旧来の「野身」を白山や日本海、緑多き平野を眺望しての「美しき能国（よきくに）」の「能美」に改称したものとされます。

利 用 さ れ る 皆 さ ま へ

1. 本書は、能美市勢に関する主な統計資料を収録したものです。
2. 本書は、令和6年中の資料を主に、過去数年間の累年比較を掲載することを原則としていますが、資料の有無、統計表の形式などの観点から適宜収録期間を伸縮したものもあります。
3. 資料の出典及び単位は統計表ごとに明記してあります。また、単位未満は四捨五入あるいは切捨てしています。
4. 表中「〇〇年」とは暦年（1月～12月）、「〇〇年度」とは会計年度（4月～翌年3月）を示しています。
5. 表中の符号は、次のとおりです。

「0」	 単位未満
「－」	 皆無または該当なし
「…」	 不明のもの
「X」	 公表をさしひかえるもの
「△」	 負 数
「｝」	 包 括